

地域環境保全功労者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	功 績
青森県	金澤 美津江 (かなざわ みつえ)	<p>金澤美津江氏は、弘前消費者の会結成当初より会員として活動し、昭和50年に理事就任、昭和60年に副会長に就任し、以来、今日に至るまで、会の発展と地域消費者運動推進、消費生活の向上の為に、積極的に活動しているところである。</p> <p>昭和48年から開催している「弘前消費者大会」では、暮らしを守る消費者運動として、時代の要請に即した問題として、消費者の立場から「資源の大切さ」、「ゴミ問題」、「ダイオキシン問題」、「容器包装リサイクル法」等をテーマに問題提起し、諸団体と協力して消費者、行政、事業者の意見交換を行って、相互の理解を深め問題の解決にあたっている。</p> <p>なかでも、環境問題が大きく取り上げられ、日常生活から出るゴミを焼却することによって発生するダイオキシンが大きな社会問題となるなか、弘前市において「容器包装リサイクルによるゴミの分別収集」の完全実施に向け、平成10年度には街頭などで署名活動を展開するなど、資源循環型社会の形成に貢献しました。</p>
山形県	宮沢翁塾 (みやざわおきなじゅく) 会長 西塚 良一	<p>平成2年12月に行政的な不法投棄回収事業に先立ち、地区内の大規模な不法投棄回収を通じて、自然環境保全と地域おこしを目的に組織された。</p> <p>平成5年9月には農業用廃プラスチックの回収を始めとする環境美化運動に取り組み始めた。また、平成7年にはフラワーロード事業を開始し、沿線の県道沿いに花の植栽を始め、現在も継続中である。最近では、醸造米「はなのさわ」を栽培し、地元の湧き水で日本酒「翁山」の醸造にも取り組んでいる。</p> <p>その他にも、県立自然公園(翁山)の保全活動、鉄魚の育成・保護活動、雪エネルギーの活用の模索、小学生を対象とした自然体験活動、中学生対象の冬季干支イルミネーションの作成、他地区・他団体の類似団体との交流等幅広く取り組みを行い、地域環境保全に多大なる貢献をしている。</p>
福島県	須賀川に清流を取り戻す市民の会 (すかがわにせいらいゅうをとりのもどしみんのかい) 会長 松島 義直	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 河川の水質浄化と環境保全活動 ・活動年数 平成8年～現在 10年 ・年間活動日数 年間約30日(3月～12月、月平均3日) ・活動地域 須賀川(下の川)の河川内(約2km) <p>長年にわたり、下の川において河川水質の浄化活動や清掃などの環境保全活動に努め、河川環境の保全活動をととして、地域の自然環境の回復や啓発に貢献し、その功績が顕著である。</p> <p>活動内容としては、堰や木炭の設置、水草の植栽等による水質浄化の取組み。そしてニシキゴイなどの魚の放流、除草や植栽などによる環境整備の取組みを行っている。また平成12年度からは「総合的学習の時間」において市立第三小学校、大森小学校も参加しており、子供たちと協働して水質の浄化と河川環境の保全を行っている。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
茨城県	田淵 俊雄 (たぶち としお) 茨城県環境審議会副会長	<p>昭和54年から茨城県水質審査会委員、平成6年から茨城県環境審議会副会長、霞ヶ浦専門部会会長として、長年にわたり本県の環境行政に協力するとともに、茨城県が整備した霞ヶ浦環境科学センターについて検討懇談会の座長として基本計画の策定に尽力した。</p> <p>また、平成7年の第6回世界湖沼会議では、企画推進委員会副委員長として、「21世紀にふさわしい環境優先湖沼流域の創出を目指して」と題し、基調講演を行うなど、学術研究の面においても顕著な功績がある。</p> <p>水質環境学及び水田工学を研究分野としており、「地域環境工学概論」「清らかな水のためのサイエンス」など、著書、論文を多数執筆している。</p>
栃木県	栗山 光央 (くりやま みつお) 宇都宮大学名誉教授	<ol style="list-style-type: none"> 1 17年もの長期にわたり、栃木県公害審査会委員を務め、栃木県塩谷町におけるゴルフ場建設差止請求事件(平成4～6年)では調停委員として紛争の調停に携わるなど、本県の公害紛争処理行政の推進に尽力した。 2 また、8年間にわたり、栃木県環境審議会委員を務め、その間、会長、副会長を歴任し、廃棄物処理計画や水環境保全計画の策定、公害防止条例の全面改正など、県の環境保全施策の推進に多大な貢献をした。 3 特に、栃木県環境審議会会長として、従来、非公開となっていた審議会からの付託事項について調査審議する専門委員会議を公開することとし、審議会における審議に積極的にパブリックコメントを取り入れるなど、開かれた会議の運営、県民の意見の反映に尽力した。 4 栃木県公害審査会委員(平成6年11月)、栃木県環境審議会委員(平成16年8月)としての功績に対し、二度にわたり栃木県知事から感謝状を授与。
群馬県	金井 賢一郎 (かない けんいちろう)	<p>昭和49年、本県の自然環境の調査研究と自然保護の推進を目的に、「群馬県自然環境調査研究会」が結成されたが、氏は会結成当初から会計幹事として会の運営に当たるとともに、「奥多野地域調査」や「草津白根調査」はじめ数多くの学術調査に参加し、多大な研究成果を収め本県自然環境の学術研究の推進に大きく貢献した。</p> <p>また、同年、本県の中心的自然保護団体である「群馬県自然保護連盟」の設立と同時に理事に就任し市民レベルでの自然保護活動の牽引役として同連盟の発展に大きく貢献し、平成16年2月からは、理事長に就任し名実共に連盟の中心的存在として活躍している。</p> <p>氏の主な研究・著書として、「大峰古沼のモリアオガエル」「群馬県のナガレタゴガエル」「群馬県動物誌(両生類)」「群馬の野生動物(上毛新聞社)」「奥多野の自然(みやま文庫)」など多数があげられるが、これらの調査結果は、現在においても環境アセスメント等を実施する際の貴重な資料となっている。</p> <p>一方、自然観察会や地域の講演会講師、前橋市の自然環境調査委員等の要職をつとめ、自然環境に関する専門知識を子供から大人までわかりやすく伝える事とおして、本県の自然保護思想の普及啓発に努めている。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
群馬県	池田 昭男 (いけだ あきお) 群馬県公害審査会会長	氏は、昭和50年から平成6年まで、18年間にわたり群馬県公害対策審議会(現群馬県環境審議会)委員として、群馬県における環境保全に関する取組について、積極的に関与されてこられました。 また、昭和51年には、公害紛争処理法及び群馬県公害紛争処理法施行条例の規定に基づき設置されている群馬県公害審査会の委員に就任され、公害紛争に係る調停事案の解決に向けて尽力されるとともに、平成12年からは同審査会の会長として審査会の運営にも当たられており、その功績は誠に顕著なものがある。
群馬県	カースチール株式会社 (かーすちーるかぶしきがいしゃ) 取締役社長 中嶋 朗	当社は、使用済自動車処理に伴う鉄・非鉄金属の回収、中古部品再利用への取り組み、フロンの回収破壊を実践するなど、様々な環境問題に対応するとともに資源循環型社会のために必要な取り組みを行い、業界を代表する企業としての責任を果たしてきた。 特に、自動車解体時に大気に出されていたフロンの環境への影響を考慮し、10数年前からフロン回収に先進的に取り組み、平成10年7月には独自にフロン破壊装置を整備し、フロンの回収破壊に積極的に取り組んでいる。 さらに、平成14年からは、群馬工業高等専門学校などとの共同研究により、フロン分解物の再利用等に関する技術の研究開発に携わるなど、我が国のフロン回収破壊システムの確立に寄与している。
群馬県	桐生の清流と森林を守る会 (きりゅうのせいりゅうとしんりんをまもるかい) 会長 小堀 順	昭和50年頃から桐生川を主体とした清掃活動・生態観測に、昭和60年頃から黒川におけるホテルの里づくりに取り組んできた。 平成12年の発会以降、毎月1回主に第3日曜日に活動している。活動内容は河川のパトロール・清掃、森林の枝打ち・下草刈り、間伐材を利用した炭焼き・ベンチ作り、森林清流ボランティアの基地としての「梅田清流広場」の整備、市有林遊歩道整備等である。 また、厚生労働省勤労者マルチライフ支援事業「里山ボランティアセミナーの実践」(NPO法人市民立NPOカレッジ受託)の運営協力や、太田市金山赤松管理オーナー参加など、地域環境の保全に寄与している。
埼玉県	大森 孟 (おおもり つとむ) 森林インストラクター	埼玉県内の「森林ボランティア活動」の草分け「里ネット」を率い、森林、林業、地球環境問題についての高度な知識・技術を持ち、「先人の知恵を後世に伝える」という目標に、一般市民に森林管理技術を指導し、森林や林業の知識を普及する活動を継続している。平成10年以来、毎月2回開催する森林インストラクター養成講座からは、60名が森林インストラクターの資格試験に合格、全国で地域の指導者として活動している。このうち30名の森林インストラクターは、今も「里ネット」の林業スクールにて、後進の指導に当たっている。林業スクールにおける森林ボランティア活動及び林業技術の指導は、毎月4回、年間48日間、参加者は、毎年約450人に上る。 小学生の森林教室では、森林利用上の注意、正しい道具の使い方、森林の大切さ、豊かさなどを学び、毎年6日間、約160名の小学生が参加する。 平成4年以来、エコツアーを年間20日開催し、森林、林業、生態系、環境問題、生物などについてハイキングをしながら学ぶ。毎年約200名が参加。 地球環境問題学習講座、毎月1回、年間12日間開催。地球の温暖化、砂漠化、内分泌攪乱物質、世界の森林事情、酸性雨などのテーマについて学ぶ。毎年約50名参加。 会報「里ネット」ニュースを会員及び一般向けにメールマガジンとして毎月3～4回発行。森林、林業、環境問題について有意義な情報提供を定期的に継続している。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
埼玉県	志木市環境教育推進員の集い (しきしかんきょうきょういくすいしんいんのつどい) 代表者 座長 尾崎 征男	座長を努めた尾崎征男代表と環境教育推進員の集いが一丸となって、世界に一本しかない樹齢400年を超えた天然記念物「チョウショウインノハタザクラ」の保護・保存・啓発の活動を継続。創作伝説「長勝院の桜物語」を切り絵の紙芝居として完成披露するなど、毎年開花時期に合わせたお祭りは徐々に市民に浸透してきている。 平成10年11月 地権者、市民、行政の協力の下、通称、せど湧水を再生し、復活を果たした。 平成11年4月 さくら功労賞受賞 全国桜祭り中央大会 (財)日本さくらの会 平成11年11月 長勝院のハタザクラ饅頭誕生 平成12年11月 長勝院ハタザクラ「埼玉ふるさと100選」 平成12年5月 長勝院はたざくら最中誕生 平成12年11月 ふるさとづくり賞 埼玉県受賞 平成13年4月 志木銘酒 長勝院はたざくら 平成13年2月 志木市の巨木古木珍木一覧番付表発刊 (3年間にわたり市内の樹木519本を調査。) 平成14年12月 ハタザクラまんじゅう 全国菓子大博覧会金賞受賞 平成15年3月 志木古木切り絵双六作成(古木調査番付表の樹木と樹種の地図を双六で回る。)
埼玉県	松澤 博三 (まつざわ ひろみ) 社団法人埼玉県産業廃棄物協会 会長	社団法人埼玉県産業廃棄物協会の設立に当たり中心的な役割を果たすとともに、長年にわたり同協会の役員として、産業廃棄物の適正処理の推進及び産業廃棄物関係者の意識の高揚等に努め、循環型社会を構築するための一翼を担ってきた。 この間、強力なリーダーシップを発揮し、同協会が産業廃棄物の適正処理及び再生処理等についての調査研究や研修会・講習会を積極的に行うよう努めるなど、産業廃棄物の適正処理の推進に大きく貢献した。 また、不法投棄現場の原状回復や保全事業に必要な事業費への活用を図るため、同協会に「さいたま環境整備事業推進積立金」を設けることについて中心的役割を果たした。特に、平成13年の会長就任後は、緊急性の高い事案への迅速な対応を図り、生活環境の保全に寄与する方針を明確にするとともに、全国に類例のない、同協会、地元市及び県との三者協働事業として廃棄物の山の撤去等を行い、県民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図った。 さらに、地震等大規模災害時における災害廃棄物の迅速かつ適正な処理に資するため、同協会が埼玉県と「地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」を締結することを積極的に推進するなど、埼玉県の廃棄物行政に係る各種施策に積極的に協力し、県民の福祉の向上に大きく貢献した。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
新潟県	枯木又エコ・ミュージアムの会 (かれきまたえこみゅーじあむのかい) 会長 阿部 隆	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の多くの人たちに、不便な豪雪山間地で生活する意味を伝え続けた。年4回機関紙を発行し、準備段階も含め、48号になっている。 ・地元民にとっては、自分たちの住む場所や生活様式が、実は多くの都市住民が心の奥底で望んでいるものであることを感じる中で、自分たちの地域の自然、歴史、文化、食品、産業などに誇りを感じるようになってきている。 ・わら細工、手打ちそば等、講習会を毎年開くことで、伝統技術の受け継ぎが順調に行われた。また、盆踊り唄、念仏等も引き継がれている。 ・山学校を年4回開催することで、都市住民だけでなく地元住民の間にも動植物等、自然に対する認識が深まった。枯木又分校の先生方の努力もあって、子どもたちが廃油石鹸づくりに取り組んだり、基盤整備に際して水中生物保護の水路を設置するなどの効果が生まれている。 ・跡継ぎの問題等もあって、過疎の流れは依然として止まっていないが、周辺他地区に比べれば、地域存続への意欲は高くなっている。
富山県	長谷川 淳 (はせがわ きよし) 富山大学工学部教授 富山県環境審議会委員 富山県環境審議会大気騒音振動専門部会長	<p>平成2年に富山県環境審議会大気専門部会専門員に就任以来、富山県環境審議会及び富山県環境審議会大気騒音振動専門部会の委員を務めたほか、環境審議会環境基本計画小委員会の委員として、「富山県環境基本計画」の改定に携わるなど、多方面から、本県の環境行政の推進に貢献している。</p> <p>特に、平成12年6月からは、環境審議会大気騒音振動専門部会部会長として、全国で唯一の全県域を対象とした大気保全行政計画である「富山県大気環境計画(ブルースカイ計画)」の改定(3回)や効率的・効果的な測定網の整備を目的とした「大気汚染常時観測局適正配置計画」の策定に携わり、大気環境保全への貢献は多大である。</p> <p>また、平成15年度には、環境審議会温暖化対策小委員会の委員長として、本県の地域特性に応じた地球温暖化対策を計画的・体系的に推進するための計画である「富山県地球温暖化対策推進計画(とやま温暖化ストップ計画)」の策定に尽力するなど、本県における地球温暖化対策の推進に貢献している。</p>
石川県	大串 龍一 (おおぐしりょういち) 金沢大学名誉教授	<p>昭和46年に金沢大学に赴任して以来33年間、多くの生態学や動植物研究者を養成するとともに、自ら先頭に立って、石川県を中心とした自然環境や環境保全に関する調査研究活動を推進した。その間、平成9年から平成11年まで、「石川県の絶滅のおそれのある野生生物(いしかわレッドデータブック)」の作成のため石川県野生動物保護対策調査会顧問として調査を指揮。</p> <p>平成11年3月に石川県が発刊した「石川の自然環境シリーズ 石川県の哺乳類」では、能登半島沖の七ツ島におけるアナウサギ(カイウサギ)の被害状況について長年にわたり調査研究した成果を執筆。</p> <p>平成17年3月石川県で初めての希少野生動植物種4種(トミヨ、イカリモンハンミョウ、シャープゲンゴロウモドキ、ウミミドリ)を指定するに当たり、石川県希少種・外来種問題検討委員会委員として、調査を実施。</p> <p>また、長年にわたり、石川県自然史協会や石川県哺乳類研究会、河北潟湖沼研究所、白山の自然を考える会などの活動に尽力し、県民等の自然環境保全意識の普及啓発や環境保全活動の推進等に果たした役割には大きなものがあり、地域の環境保全への功績は多大なものがある。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
山梨県	富士吉田市オフィス町内会 (ふじよしだしおふいすちょうないかい) 会長 渡辺 努	<p>オフィスから発生するごみを減量化するため、再生利用が可能な資源ごみ(新聞紙、ちらし、ダンボール、雑誌、書籍、パンフレット、上質紙、飲料用紙パック、ピン、缶、ペットボトル)を協同して収集、再生利用するシステムを構築している。</p> <p>また、古紙100パーセントのトイレトーパーやティシュペーパーを共同購入して、再生商品の普及啓発に積極的に努めている。最近3年間の回収実績は、14年度605トン・15年度470トン・16年度405トンで再生利用したトイレトーパーの個数は、14・15・16年度とも26,000個を利用している。平成5年に47事業所で設立し、現在66事業所で累積収集量は、約5,000トンに達している。</p>
長野県	社団法人 長野県自動車店協会 (しゃだんほうじんながのけんじどうしゃてんきょうかい) 代表者 会長 宇都宮 元	<p>本団体は、設立当初から環境保全の重要性を強く認識し、組織内に環境部会を設け、廃自動車対策、フロン回収・破壊、汚水の適正処理、自動車公害防止のための啓発、低公害車の普及に努めている。</p> <p>廃自動車対策については、自動車リサイクルやフロンの回収・破壊の推進のため、協会事業の一環として全国で初めて協同組合による中間処理施設を設置し、その活動を支援している。特に、フロン回収破壊実績は全国トップクラスを誇っている。</p> <p>また、環境イベントやテレビ等を利用してフロン回収破壊の必要性について啓発活動も実施している。</p> <p>このように自動車社会の環境問題を真っ正面から捉え、環境行政の推進に大きく貢献している。</p> <p>また、低公害車の普及推進のため、平成13年から毎年環境イベントに出展し啓発活動を積極的に行っている他、自治体への低公害車の寄贈、自ら率先した低公害車の導入などの活動を実施している。</p> <p>さらに、「車は低公害車、アイドリングはストップ」と題するリーフレットを独自に作成し、環境イベントでの啓発とともに、会員店において広く自動車ユーザーに配布し、アイドリング・ストップ運動及び低公害車普及の啓発に努めるなど、環境保全に対する貢献は顕著である。</p>
岐阜県	加賀野名水保存会 (かがのめいすいほぞんかい) 会長 後藤 勝美	<ul style="list-style-type: none"> ・多年にわたり、毎月第一、第三土曜日に、加賀野八幡神社名水井戸及びその周辺の清掃活動を行い、名水井戸及びハリヨ池等の水質環境保全に貢献されたことは、誠に顕著である。 ・大垣市環境市民会議、はりんこネットワーク例会、ホテルネットワーク例会へ参加し、大垣市環境基本計画の「ハリンコが泳ぎ、ホテルが舞う水都・大垣」の実現のために積極的に活動し、地域の環境保全に尽力された。ハリヨのみならず、近年はホテル生息の環境づくりにも寄与されている。 ・地元の子供会や、小学校と積極的に交流し、名水をはじめ、ハリヨやホテルの保護を通じ、子供たちに自然保護の大切さを教えるなど、教育の場においても素晴らしい環境学習を実施されている。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
静岡県	勝亦 正人 (かつまた まさと) 富士市議会議員 富士市環境審議会副会長	<p>1. 富士市環境行政担当者としての功績 昭和40年代の富士市は、大気汚染問題や田子の浦港ヘドロ問題、クラフトパルプ工場よりの悪臭問題などあらゆる公害事象が顕著化し、「公害のデパート富士市」と言われた時代があった。特に、大気汚染については、法による規制が順次強化されたにも関わらず、通称「富士ぜんそく」とも呼ばれた喘息患者が依然大量に発生する等の深刻な状況にあった。この様な中、氏は大気汚染の元凶と言われていた二酸化硫黄対策として、全国的にも画期的な総量規制方式を富士市独自の規制手法として取り込んだ「富士503計画」を策定・実施した。氏は、この計画を有効に実施すべく、市内百数十工場との交渉を行い計画の推進に尽力するなど、大きく貢献した。この計画により、富士市のみならず、周辺市町村の大気汚染についても大幅な改善がみられた。また、悪臭対策についても、県内で初めて官能試験法を採用した悪臭規制の基礎を築くなど静岡県の環境保全についても大きく貢献した。</p> <p>2. 富士市議会議員としての功績 昭和62年富士市議会議員として当選後現在に至るまで、富士市公害対策審議会・富士市環境審議会の副会長を務める中、富士市の重点環境対策施策である「富士市悪臭公害防止対策指導要綱基準値見直し」(昭和63年答申)や、「富士市環境基本計画の策定」(平成14年答申)、「富士市悪臭防止対策について(悪臭防止法臭気指数規制への移行)」(平成16年答申)について、その専門知識や豊かな経験を生かし、富士市の環境保全に大きく貢献したばかりでなく、これらの結果は静岡県の環境行政および県内市町村についても先進的な影響を与えた。</p>
愛知県	野崎 悠子 (のざき ゆうこ) 愛知県立芸術大学名誉教授	<p>愛知県環境影響評価審査会議及び愛知県環境影響評価審査会の委員として、環境影響評価制度の立ち上げ当初から19年間もの長きにわたり、環境とかわるデザイン視点から審査に携われ、愛知県の環境行政に多大なる貢献をされた。藤前地先における廃棄物最終処分場設置事業、東部丘陵線など、数々の審査において部会委員を務められ、特に調査・予測・評価の対象項目である「景観、人と自然の触れ合い活動の場」については、専門的見地から活発な御意見を述べられた。また、愛知県自然環境保全審議会の委員としてもその審議に長年携われ、自然環境保全等基本方針の変更にあたり貴重な御意見をいただくなど、愛知県の環境行政の推進に尽力された。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
三重県	被川環境美化推進協議会 (はらいがわかんきょうびかすいしんきょうぎかい) 代表者 会長 桐井恵一	<p>活動の内容 不法投棄防止の啓発や、清掃美化活動、現地調査(被川1.4km)、地元小学生を対象にした水生生物調査(草刈りなどの事前準備も含む)、他の河川保護団体や最新工法の河川視察研修会や松阪市側住民団体との連絡会議等、年度当初に事業計画を立て計画的に活動している。</p> <p>活動の効果 毎年行っている小学生を対象とした水生生物調査は、将来を担う子供たちに川に棲む生物の調査を通じて環境保護の重要性を認識してもらうことができるし、強いてはフィールドで活動することによって、学校ではあまり経験し得ない体験も行うことができ、教育現場から評価をいただいている。また、当協議会の活動により水質浄化や不法投棄等の減少、意識の高揚にもつながっている。</p> <p>地域・社会への波及効果 当協議会の活動は毎年当協議会総会において流域の各自治会に実績を報告している。流域の住民も被川の環境の重要性を認識しつつあり、当協議会の美化活動により関係自治会も継続的な美化活動を行うようになってきた。</p> <p>今後の計画 現在までは、明和町流域のみの活動となっているが、今後は被川全体、強いては櫛田川やその支流も視野に入れ広範囲に意識を持ち活動を行っていく。 水質をより浄化し、人と自然が共有できる河川づくりを推進する。 地元小学生のための総合学習の一環として、被川での体験活動を多くし、将来の環境に関する認識を高めていく。</p> <p>その他 被川には県内では他にみられない淡水二枚貝やタナゴ類も生息しており、それらを中心に野生動植物の保護についての勉強会や啓発資料(ビデオ等)の作成を行っている。 また被川の野生動植物の保護活動も行っている。</p>
京都府	大江町商工会女性部 (おおえちょうしょうこうかいじょせいぶ) 部長 井上 明美	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭から排出される廃食油を再生利用した石けんづくりに取り組むとともに、EMポカシ菌による生ゴミ処理等のリサイクル活動に積極的に取り組んでいる。また、ペットボトルをモグラやカラス除け用の風車に再生利用し製品化するなど、町商工会と連携した「ゴミ減量事業」は、町内外からも評価が高く、循環型社会の意識啓発に寄与している。 ・近年は、荷造り用の紙テープを素材にした買い物かごの作成指導を行っており、レジ袋の抑制に向けた活動を強化している。
京都府	特定非営利活動法人 環境共生都市推進協会 (とくていひえいりかつどうほうじん かんきょうきょうきょうせいとすいしんきょうかい) 代表 森田 記行	<p>ペロタクシーはドイツで開発された人と環境にやさしい自転車タクシーであり、ヨーロッパを中心に12カ国22都市で運行されている。同協会においては、環境にやさしい交通手段としての自転車タクシーの運行を通じて環境共生型のまちづくりを提唱・実践するなど環境保全意識の高揚に貢献しているとともに、運行地域を国内各地に拡げるなど、今後のさらなる発展が期待される。</p> <p>また、ペロタクシーは公共交通としての定着を目指しており、「お天気がいいから自転車でいこう」と「ゆとり」をもった人を増やすことが環境にやさしい街づくりにつながると考えられ、さらには、多くのドライバーの雇用創出や地域企業とも連携した活動は、地域の活性化にも貢献している。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
京都府	<p>特定非営利活動法人 古材バンクの会 <small>(とくていひえいりかつどうほうじん こざいばんくの かい)</small></p> <p>理事長 永井 規男</p>	<p>同会は、結成以来10年にわたり、伝統的木造建築の調査や再評価を行うとともに、職人技能の体験塾や勉強会、古材を用いた木工教室、再生建築研究集会の開催、古民家活用法に関する市民相談活動などを通じて、木造建築物の長寿命化による建築廃棄物の減量化とリユース及び資源循環に係る意識啓発に貢献してきた。</p> <p>木造建築物の再生や古材の活用などの取り組みを通じて、我が国の自然や風土に根ざした「木の文化」の再発見にも寄与しており、日本の伝統に基づく環境保全活動として、今後のさらなる発展が期待される。</p>
京都府	<p>特定非営利活動法人 きょうとグリーン ファンド <small>(とくていひえいりかつどうほうじん きょうとぐりー んぷあんど)</small></p> <p>代表 板倉 豊</p>	<p>きょうとグリーンファンドは、温暖化防止に有効な節電・省エネの推進と自然エネルギー利用を地域で普及することを目的に設立され、府内の幼稚園や保育園など地域の準公共施設に太陽光発電設備「おひさま発電所」を現在までに7基、市民共同で設置してきた。</p> <p>その手法は、毎月の電気料金の5%程度を節電目標にし、その節電見合いの額(500円)を「おひさま基金」に寄付してもらうなど、誰でもが無理なく持続的に参加でき、なおかつ自らの活動や暮らしを見直すことを促すものである。省エネルギーの取組の成果を太陽光発電設備の整備につなげるというこの取組は、単にNPOが設備を設置することを目指すだけでなく、地域の団体や住民がそれぞれの立場で環境問題に関わり、環境保全意識を高めることにも繋がっている。</p> <p>また、幼稚園等への太陽光発電設備の設置は、子どもたちに幼児期から環境問題に肌で触れさせ、環境にやさしい実践方法について身近なレベルで体験的に学ぶための教材として活用でき、同時にその施設を利用する保護者や地域住民等に対しても、環境への意識の向上を図ることが期待される。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
兵庫県	ホタルの里創造協会 (ほたるのさとそうぞうきょうかい) 会長 古堂 喜明	<p>自然保護思想の普及 市民の自然環境に対する理解、認識を深めるため「ほたるまつり」や自然とのふれあいの場の整備を図るなど、あらゆる機会を活用し、「人と自然の共生」を基本理念に自然保護思想の普及に貢献した。</p> <p>自然保護運動の推進 自然環境保護のため、ゲンジボタルを始めとした生態調査や学習、周辺整備を図ることで、自然とふれあう機会を充実させ、地域住民の主体的な参画のもと、生態系生息区間の保全を行っている。県の内外から数多くの官公庁や自治体の視察を受け入れることで、近隣市町にとどまらず、その運動は拡大している。</p> <p>自然とふれあいの場づくり 人々にうらおいとやすらぎを与える自然を守り、人と自然の交歓の場づくりを提供することで、年間を通して、京阪神を始めとした数多くの人々が訪れ、休息の場又は憩いの場として広く活用されている。また、都市と農村の交流拠点地として、人と人との繋がりを地域ぐるみで行っている。</p> <p>自然体験や指導者の育成(自然環境教育) 昆虫標本教室、木工教室などを通じて、子どもたちに自然の大切さを教え、豊かな心を育てている。また、森林や天文等の自然学習を教えるための指導者を育成するため、研修生の受入れなど幅広く活動している。</p> <p>被災地への支援活動「花と緑の希望王国」 平成7年に阪神・淡路大震災が発生したことで、このショックから心と体のバランスを崩している子どもたちに対して、毎日新聞社・毎日新聞大阪事業団は、兵庫県、大阪府の青少年関係機関と連携した「阪神大震災こどもケアネットワーク事業」を展開させた。当協会においてもその計画に賛同し、奥米地にその拠点地として、平成8年に「花と緑の希望王国」を建国させ、里全体で、子どもたちが豊かな自然環境を通じて、地域の人とふれあいながら心を癒すことのできるよう支援活動を行った。</p>
和歌山県	はしもと里山保全アクションチーム (はしもとさとやまほぜんあくしょんちーむ) 代表者 柳本 清史	<p>「はしもと里山保全アクションチーム」は、里山の自然や田園風景を守るため活動を続けているイギリスの環境保護団体BTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のメンバーを迎え、日本で初めて「日英合同里山・田園保全ワーキングホリディ」が和歌山県橋本市で開催されるにあたり、これまで地域で環境保全活動を続けてきた市民グループの呼びかけで発足した。</p> <p>当団体は、後継者不足により休耕田や未整備林が増加するなど里山の荒廃が進む中で、農村に隣接した雑木林や棚田などを借り受けて、そこを「ふるさと演習林」と名づけ、間伐・除伐・植林行ったり、棚田で米や野菜の栽培などを行っている。</p> <p>また、山林作業や棚田の耕作等を通じて得られた作業技術を写真やビデオ、文章等に記録し、写真展示や会報の発行を行うなどして、自ら体験した伝統技術を後世に継承することや、地域住民の地元に対する愛着が高まるように、特に未来を担う子ども達が自然とふれあい、自然の守り手として成長してくれるようにと願いながら環境保全活動を続けており、こうした様々な活動を通じて自然保護意識の浸透に多大の貢献をしている。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
島根県	林 謙治郎 (はやし けんじろう) 自然公園指導員	多年にわたり、自然公園指導員として定期的に自然公園を巡回し、動植物などの保護パトロールを行い、自然公園の美化清掃活動、公園利用者の事故防止に努めるとともに、自然保護の大切さを訴え、自然に対する理解の促進に努めた。また、実家(写真館経営)の写真技術を活かして、長年にわたり自然公園内の動植物の写真撮影して、島根県立三瓶自然館等に掲示し、自然公園の普及啓発に努め、自然環境の保全に貢献した。
岡山県	角南 重夫 (すなみ しげお) 川崎医科大学教授	氏は、卓越した識見と温厚な人柄により、長年にわたり岡山県環境審議会委員を務めるとともに、平成12年9月から副会長として会長を補佐し適切な提言を行い、同審議会の円滑な運営に尽力されるなど、岡山県の環境行政の推進に多大な貢献を果たしている。特に、同審議会の大気部会長を兼務し、岡山県環境への負荷の低減に関する条例に定めるベンゼンの排出抑制に係る規則及びディーゼル自動車に係る粒子状物質削減規則等の制定に当たり、優れたリーダーシップにより、その取りまとめに尽力された。
広島県	私立盈進学園中学校環境研究部・高等学校科学研究部 (しりつえいしんがくえんちゅうがっこうかんきょうけんきゅうぶ・こうとうがっこうかがくけんきゅうぶ) 教諭 古本哲史・大北祐治	1. 河川改修にあたっての指導・助言 国希少野生動植物種に指定された「スイゲンゼニタナゴ」が生息している水路の改修の際にスイゲンゼニタナゴ保護バイパス水路の新設に向けての提言や、その設計から施工の各段階において助言し、その後も引き続いて生息状況等のモニタリング調査を行っている。その他の生息が確認された河川等の改修工事にあたっては、積極的な指導を行っている。 2. スイゲンゼニタナゴ生息状況調査の実施 毎年3月の「スイゲンゼニタナゴ及び産卵母貝の実態調査」や、その他市内の生息状況調査を継続して実施し、その調査結果は貴重なデータとなっている。 3. 芦田川水質浄化に向けての啓発活動 市民参加型の啓発事業「芦田川リバーウォーク」においてスイゲンゼニタナゴをはじめ芦田川に生息する淡水魚の展示や解説を行なう等、芦田川の水質浄化のための啓発活動を実施している。 4. オニバスの保護活動 市内数ヶ所で確認されている絶滅危惧種の「オニバス」について、生息分布状況を調査し、また、生息地域の住民と協力して、池の水質調査や清掃活動等を実施している。 5. 環境学習への取り組み 自然保護や地域の野生生物を保護する観点から、学園内のみならず、他の小中学校や公民館等の環境学習会で、「ゲストティチャー」として活躍している。 また、長期にわたり、自然環境保護を継続して訴える等の活動を通して、今日の環境学習の基礎を築いた。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
広島県	<p>宮島水族館 教育ボランティア (みやじますいぞくかん きょういくぼらんていあ)</p> <p>代表者 静間 邦男(しずま くにお)</p>	<p>(1) 定例活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体ミーティング(毎月) ・ペンギンのミニ講座及びエサやり(土日祝日) ・館内展示水槽等のガイド等 <p>(2) 個別企画に関する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族館裏方見学 ・干潟生物観察会 ・干潟生物宮島水族館沖定点観察(5年間にわたるデータ収集・データによる環境比較) ・エコクラブや他のボランティアグループ、団体等主催のイベントへの協力 <p>瀬戸内海沿岸の水族館では、ボランティアによる館内ガイドは初めての試みであり、メンバーは水族館職員を講師にした勉強会・飼育実習に参加するなど自主研修を行い、水族館ボランティアガイドに関する専門知識・技術の向上に努めている。</p> <p>メンバーは幅広い活動を通じ、水族館来訪者等に自然や海の生物とのふれあい、瀬戸内海の環境保全への関心を喚起しており、これらは環境教育・環境学習の推進に資するものである。</p> <p>以上により、団体の活動は、瀬戸内海の環境保全に関する意識の高揚を図る上で多大な功績を果たしていると認められる。</p>
山口県	<p>都築 啓 (つづき ひろし)</p> <p>阿東町環境衛生連合会会長</p>	<p>昭和56年から阿東町生雲地区の環境衛生自治会に所属、地域の環境保全活動に積極的に参加し、生雲地区の環境衛生自治会長を経て阿東町の環境衛生連合会長として阿東町全域の環境問題に携わっている。現在は、連合会の不法投棄撤去作業・地域環境パトロール・分別指導等事業を中心として積極的に活動するほか、行政に対する地域のパイプ役として活躍している。</p> <p>さらに、地域において年間を通して河川清掃を実施して水害等を未然に防止する活動を行っている。この結果、梅雨時期の水害防止と夏期には町内でも有数のホタルが飛び交う河川として清流の維持に貢献している。</p> <p>また、平成13年4月から山口健康福祉センター管内環境衛生連絡協議会副会長、平成12年6月から同センター管内廃棄物不法投棄等連絡協議会における不法投棄等監視連絡員、平成5年5月から平成12年10月まで阿武川水系生活浄化対策協議会の民間委員として、同年同月より組織改編された阿武川水系森・川・海水環境ネットワーク協議会の民間委員として、現在に至るまで環境に関する各方面で貢献している。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
徳島県	<p>特定非営利活動法人 太陽と緑の会 <small>(とくていひえいりかつどうほうじん たいようとみどりのかい)</small></p> <p>代表理事 杉浦 良</p>	<p>長年にわたり、不用品の回収修理やリサイクル商品の販売など、ごみの減量化とリサイクル活動を積極的に行い、地域の環境保全に貢献している。</p> <p>主な活動内容は以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不用品・資源ごみのリユース・リサイクル活動を展開（年間約6000件、約1000トンの不用品回収。年間約2000台の廃棄自転車をリユースし、ゴミの減量に大きく貢献） 2. 廃食油のリサイクルを実施（約4000リットルの廃食油を6トンの粉石けんに転換） 3. 農薬・化学肥料を一切使わない農業、平飼による自然養鶏を实践 4. 自然循環型生活（エコライフ）を实践 5. 太陽光・太陽熱利用を实践（事務局の電気使用量の半分を発電） 6. 河川敷の環境美化・清掃活動を展開 7. 徳島県エコショップ第1回認定店（平成6年）として活動 8. リサイクル作業所における体験ボランティアの受入と育成を実施 9. 機関誌及びウェブサイトにより各種情報を地域住民に発信 10. 研修会、イベントの開催及び講演活動を展開 <p>ウェブサイトのアドレスは以下のとおり http://www2.ocn.ne.jp/~t-midori/</p>
香川県	<p>「アサザ」の里・久米池 <small>(あさざのさと・くめいけ)</small></p> <p>代表者 稲田 稔（久米池水利組合長）</p>	<p>活動内容 久米池提体の除草、清掃、花壇の植栽・灌水 希少水生植物「アサザ」の保護活動を中心に環境保護への理解を深めてもらうため子供たちに生涯学習を行っている。</p> <p>活動従事年数 平成9年～現在まで（計8年）</p> <p>活動地域 久米池周辺</p> <p>活動1回当たり人数 約40名</p> <p>その他の活動 EM菌（有用微生物群）活性液による水質浄化に取り組んでいる。（平成15年～16年にかけてEM団子80,000個を投入）</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
福岡県	<p>大嶋 文男 (おおしま ふみお)</p> <p>福岡教育大学名誉教授</p>	<p>長年にわたり、福岡県環境審議会委員、福岡県公害専門委員などの立場から、福岡県の環境保全に係る重要な審議に際して、指導・助言を行い、環境行政の推進に多大な貢献をした。その経歴は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水巻町環境審議会委員（昭和48年2月～平成8年9月、平成6年9月までは水巻町公害対策審議会委員） ・福岡県環境審議会委員（平成3年8月～平成16年6月、平成6年10月までは福岡県公害対策審議会委員） ・福岡県公害専門委員（平成4年4月～平成16年9月） <p>特に平成9年2月から平成16年6月までの7年4月にわたり、福岡県環境審議会会長として指導力を発揮し、今日の福岡県の環境行政の礎となる「福岡県環境総合基本計画」の策定に際しては、度重なる審議の結果、審議会の意見をまとめ、多大な貢献をした。</p> <p>また、同審議会水質部会長、福岡県公害専門委員として、水質保全の専門的な立場から様々な課題に精力的に取り組み、多大な貢献をした。</p> <p>さらに、水巻町環境審議会委員として、長年、地域の環境保全行政の推進に多大な貢献をした。</p>
熊本県	<p>前田 秀造 (まえだ しゅうぞう)</p> <p>宇城自然観察会会長</p>	<p>本県では自然環境保全活動のリーダー養成を目的として、平成13年度から「熊本自然環境研究会」との共催により「自然環境研究学習会」（12ヵ月の養成期間）を実施しており、平成16年度まで180人余りのリーダーを養成し、本県の環境保護活動の活性化を図っている。</p> <p>氏は、この学習会において熊本自然環境研究会を代表する運営委員として当初から参画、率先して活動し学習会運営に多大の功績を残した。学習会を継続して開催し、多くの自然保護活動のリーダーが養成されたことはひとえに、氏の尽力によるものである。</p> <p>また、氏は、平成6年度から発足した熊本県を含め県内の自然保護団体等40団体からなる「熊本県自然保護関係団体等協議会」の役員として発足当初から、長年に亘り会務に携わり各団体の連携と強調による協議会運営を確立した功績は多大であり、県内の自然保護関係者からの信頼も厚い。</p> <p>さらに、氏は、県南宇城地区の自然環境学習を目的として発足した「宇城自然観察会」に昭和63年から同会活動の中心的メンバーとして参加し、宇城地区を中心に自然観察会や自然観察学習会（講演会）等の運営に積極的に貢献し、宇城地域の自然保護活動の基礎を作り、平成14年度からは会長として一層の活動の活性化に努めている。</p>
大分県	<p>真柴 茂彦 (ましば しげひこ)</p> <p>国土交通省番匠川河川オブザーバー、国土庁・佐伯土木事務所番匠川水系流域委員他</p>	<p>多年にわたり、番匠川水系の植物と微小生物の調査研究をはじめ、大分県下における動植物の調査研究を行うとともに小中学校の児童生徒や一般の人々に対し、講習会や自然観察会を行うなど自然保護、環境保全の普及啓発活動に尽力した。また、大分県版レッドデータブックの作成にあたっては、種子植物の編集委員として携わり、その完成に大きく貢献した。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
宮崎県	<p>山崎 力子 (やまさき りきこ)</p> <p>延岡市ボランティア協議会顧問 延岡市社会福祉協議会評議員</p>	<p>昭和57年から長年にわたり、生活学校運動の委員長・幹事としてごみ減量やリサイクル活動に積極的に取り組む一方で、多くの資源リサイクルグループを設立し、ごみ回収ルートのシステムづくり等を行った。また、地域住民や児童に対しても、環境保全活動にかかる体験学習指導を行う等、「多年環境保全に関し普及啓発活動、その他公共的活動を行った者」に該当すると認められる。</p> <p>(1) タートル会-----リングプル、アルミ缶、びんの回収グループ (2) みどり会-----割り箸の回収グループ (3) ノートをつくる会----裏紙利用のノートづくりグループ</p> <p>平成16年度宮崎県地域環境保全功労者表彰(個人の部)</p>
宮崎県	<p>中野 俊朗 (なかの としろう)</p> <p>(社)宮崎県産業廃棄物協会理事</p>	<p>平成2年から長年にわたり、宮崎県産業廃棄物協会の理事・会長等を歴任し、この間、各種研修会、先進処理施設の視察会を開催する等、県内の産廃業者の育成及び適正処理の推進を図るほか、産廃処理にかかる県民の理解を得るため、県内5カ所において「パネル展」を開催する等、「多年環境保全に関し普及啓発活動、その他公共的活動を行った者」に該当すると認められる。</p> <p>平成16年度宮崎県地域環境保全功労者表彰(個人の部)</p>
鹿児島県	<p>税所 俊郎 (さいしよ としお)</p> <p>鹿児島県環境審議会会長 鹿児島大学名誉教授</p>	<p>昭和53年から現在まで27年間にわたり、鹿児島県環境審議会(水質部会)の中心的な委員として、公共用水域の水質保全、水生生物保護のための水質測定計画の策定、上乘せ排出基準の設定及び水質環境基準の水質類型への適用など専門的な立場から適切な指導・助言を行っている。</p> <p>なお、平成14年からは県環境審議会会長、同審議会水環境部会長に就任し、平成15年からは、同審議会総合政策部会長にも就任した。総合政策部会長就任期間中には、本県環境行政の基本方向を示し、環境保全施策を総合的かつ計画的に定めた「鹿児島県環境基本計画」の改定にあたり、専門的な立場から適切な助言・指導を行った。平成16年には、県が行う地球温暖化防止のための総合的な対策や県民、事業者等が取り組むための行動指針を示した「鹿児島県地球温暖化対策推進計画」や環境学習を体系的かつ計画的に推進するための施策等を示した「鹿児島県環境学習推進基本方針」の策定についても部会長として尽力し、本県の環境行政の推進に多大な貢献をしている。また、同氏は、海洋・湖沼のプランクトンや環境保全に関する研究に大きな功績があり、本県の環境行政の大きな柱の一つとして重点的に取り組んでいる鹿児島湾や池田湖の水質環境管理計画、水生生物の保全に係る水質環境基準の設定に伴い実施している環境調査計画の策定に当たっては、同氏の貴重な指導・助言等に寄与するところが大きい。</p> <p>さらに、本県の環境行政のみならず鹿児島市の「のぞましい水環境に関する検討会」(平成8年)や「甲突川生態系復元調査検討委員会」(平成10～平成13年)等の委員にも就任されるなど、県内外で多方面で活躍され地域環境に与えた功績は顕著なものがある。</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
鹿児島県	又野 未春 (またの すえはる) 前鹿児島県ツル保護会ツル保護監視員	<p>第2次世界大戦の終戦に伴い復員し、農業に従事する。</p> <p>昭和29年5月ごろ、合併して間もない鹿児島県出水市から岡田孫市さんとともにツルのエサまきを依頼されたことから、本格的にツル保護活動を始めた。</p> <p>当時は、戦争により渡米するツルも300羽ほどに減少しており、何とかツルの渡米数を増やしたいと週3日ほど、生甘薯を細かく刻んでまいていた。</p> <p>昭和34年度から2年間、ナベツル、マナツルに加えて1羽のソデグロツルが渡米し、新聞で大々的に報道されたため、内外から鳥類学者が多数来訪し、全国的に有名になった。</p> <p>昭和37年に鹿児島県ツル保護会の結成に伴い、ツル保護会からツル保護監視員を受託し、11月から3月末日までツルの越冬期間中は、毎朝朝7時からツルのエサまき、人工ねぐらや水の管理、観光客や愛鳥家への説明・指導、ツルの休遊地の巡回見回り、傷病ツルの保護等に当たるなど、50年にわたり出水平野のツル保護に携わってきた。</p> <p>このほか、観光客や行政視察、外国からの要人等の案内、テレビ・新聞・雑誌等の取材、問い合わせに対しても対応し、ツル保護の普及啓発にも努めてきたところであり、50年という長きに渡り寝食を忘れ、その人生をツルの保護にかけてきた功績は顕著である。</p>
沖縄県	NPO法人 沖縄 海と渚 保全会 (NPOほうじんおきなわうみとなぎさほぜんかい) 代表者 理事長 田中 幸雄	<ul style="list-style-type: none"> ・同会は、海浜の清掃活動を中心に、広報活動や環境教育にも取り組み環境保全活動の普及啓発に貢献している。 ・平成8年から120回以上の海浜の清掃活動を展開し、地域住民や子ども達の他、様々な団体がボランティアで参加しており、活動範囲や参加者・活動回数ともに年々、拡大している。 ・広報活動では、清掃活動の参加呼びかけ、「漂着ごみ」に関するパネル展や講演会の実施、また、各種環境イベントで積極的に参加し、海浜の保全について発信している。 ・環境教育においては、小・中・高等学校への出張環境教室、海浜清掃でのゴミ調査の他、環境教育の教材開発にも着手し、環境教育用CD-ROM「Let'sリサーチ! 美ら島の海」を作製し県内の学校へ配布している。また、低学年児童向けの環境紙芝居「あやちゃんのゆめ」を作製し児童・生徒や先生、PTAによる演劇を幼稚園等で上演している。 ・同会の活動に参加した子ども達が、自発的に環境活動に取り組んでいる事例もあり、同会の普及啓発活動の成果が現れている。 <p>(表彰)</p> <p>平成14年 7月 めんそーれ沖縄県民運動推進協議会 ボランティア美化活動受賞 平成14年 11月 第十一管区海上保安本部長表彰 海浜美化団体 平成17年 5月 社団法人全国海岸協会表彰 海岸美化功労者団体</p>

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
横浜市	桜ヶ丘・森の仲間たち (さくらがおか・もりのなかまたち) 代表者 服部 雄一	横浜市が所有する桜ヶ丘緑地の保全、育成、活用を進めるため、森づくりに必要な作業 森の活用のために必要な作業 間伐ででた材の活用 活動に必要な知識や技術の共有及び向上を図るための事業 森づくりの大切さと楽しさを共有する企画の開催 などの活動を行い、環境保全に関する普及啓発活動に貢献している。
横浜市	梅田川水辺の楽校協議会 (うめだがわみずべのがっこうきょうぎかい) 代表者 三浦 和弘	横浜市を流れる梅田川とその流域の自然を大切にしながら、子どもたちの自然体験の場、遊びの場として活用するとともに、川や水辺の生息環境保全を、学校、市民団体、地域の住民の方々と連携して行っている。 毎年、夏と冬に行う「清掃活動」と「生き物調査」では、川の環境の経年変化を記録するなど、環境保全に関する普及啓発活動に貢献している。
横浜市	野島自然観察探見隊 (のじましぜんかんさつたんけんたい) 代表者 本田 明	「身近な自然を探検」をテーマに活躍している「こどもエコクラブ」の団体である。横浜市内の「野島海岸」の清掃や学習を地域住民、漁協、行政などと連携して行っている。 2002年度からは小中学校の土曜日休校に伴い、地域活動団体と協力して、隊員、市内の小中学校、教員を対象に体験講座「探見！野島ワンダーアイランド」を開催し、地域の団体やネットワークの強化、人材の育成にも努めている。 また、横浜を離れた長野県戸隠村にも「こどもエコクラブ」のネットワークの輪を広げ、夏、冬の2回の「わくわくキャンプ」を行うなど、自然の魅力を子ども達に伝えながらの環境保全活動や人材育成に貢献している。
名古屋市	紙野 健二 (かみの けんじ) 名古屋大学大学院教授	多年にわたり、名古屋市環境審議会委員、名古屋市環境影響評価審査委員として、環境保全に関する重要事項の審議を通じて環境行政の推進に尽力した。
名古屋市	水谷 宣美 (みずたに のぶよし) 水谷医院 院長	多年にわたり、名古屋市公害健康被害認定審査会委員及び名古屋市公害診療報酬審査委員として、公害健康被害の補償等に関する法律に基づく被認定者に対する認定の更新等に係る医学的審査業務及び療養の給付に係る診療報酬請求審査業務に従事し、また、指導助言医として、名古屋市特定呼吸器疾病患者医療救済条例に基づく医療費に関する診療報酬審査業務に従事し、公正かつ円滑な補償救済事務の推進に尽力した。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
神戸市	伊川を愛する会 (いかわをあいするかい) 会長 佐野 哲正	当会は市内でも有数の河川として知られる伊川の環境の保全と美化、地域の交流とふれあいを目指して、平成6年に発足しました。以来、流域の関係諸団体と協力して毎年夏には、伊川リバーフェスタ(川まつり - 13回実施)を開催している他、随時クリーン作戦(河川美化活動)を行っています。また、啓蒙啓発事業として、機関紙「らぶりい伊川(11号発行)」の発行や流域の小学生を対象としたこども淡水魚教室、ホテル鑑賞会の開催、河川の保全・保護をよびかけるマナー看板・案内板の設置(計4ヶ所)、関連施設研修などを行っている他、交流ふれあい事業として、伊川の今昔を探る流域ウォーキング・遺跡名所めぐり(10回実施)、ゲートボール大会、グランドゴルフ大会なども行っています。さらに、地域住民や子どもたちに伊川の自然や生きものを大切にしてほしいと、伊川の自然を描いた絵はがきや伊川の生きものを描いた缶バッジの作成も行いました。伊川は農業用水、生活用水として、昔からその環境の変化は、地域住民の生活と密接に関わっているということを念頭に、地域住民とともに伊川の環境保全、および地域住民の環境保全意識の高揚に大きく貢献し、他団体の模範となっています。
神戸市	小森星児 (こもり せいじ) 神戸山手大学教授	多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である、神戸市環境影響評価専門委員会及び神戸市環境影響評価審査会の委員として主として環境計画の面より、厳正な調査審議に尽力をされている。 また、環境問題に関する深い理解と幅広い学識をもとに、本市の環境行政に対して有益かつ、先見的な助言をいただいている。
広島市	エコロジー研究会ひろしま (えころじーけんきゅうかいひろしま) 会長 久保 允誉	平成3年から、生活に身近な水質汚濁やゴミ・リサイクル問題から地球環境問題まで幅広い範囲で環境問題を取り上げ、講習会やシンポジウムを開催するとともに、平成8年からは、太田川を活動拠点とした水環境の保全活動を継続的に実施している。 特に、子ども達を対象とした太田川の自然環境を学ぶ「太田川せせらぎ学習塾」や大人を対象とした地域の自然体験のリーダーを養成する「リバーエコロジー大学」の開校、太田川放水路護岸の整備について提案を行う「太田川川づくりを楽しむ会」の結成など、広島市の水環境における保全活動や地域における環境保全の普及啓発活動に大きく貢献している。

県別	氏名・年齢・住所・職業	功績
静岡市	土 隆一 (つち りゅういち) 静岡大学名誉教授	<p>長年にわたって本県の環境保全活動や学術的研究に従事し、当市においても旧清水市環境保全審議会、旧清水市興津川環境保全審議会の委員等を歴任し、また、旧清水市の北部山間地管理計画の策定や、興津川保全条例の策定に尽力された。また、当市の地下水脈等を熟知され、地下水汚染地区における汚染原因の解析をいただき、汚染の早期解決等当市の環境保全活動に多大な尽力をいただいている。</p> <p>論文 駿河湾周辺の新第三系・第四系の構造とネオテクトニクス(昭和59年、第四紀研究)ほか</p> <p>研究的活動 国際インド洋調査(海鷹丸)(昭和38年)、静岡大学アンデス学術調査隊長(文部省国際学術調査)、国際地質対比計画ほか</p> <p>社会的活動 静岡県文化財保護審議会委員(昭和53年1月～平成9年12月)同会長(平成8年～9年)</p> <p>表彰 知恩会齋藤賞「富士山の地下水の地球科学的研究」(平成2年5月) 静岡県知事表彰(学術・文化分野)(平成10年11月) 日本地理学会永年会員功労賞(平成11年3月)</p>